

令和4年度 学校経営計画に対する自己評価計画中間評価報告書

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	備考
1	生徒自身が自己の目標を見据え、課題に対して主体的・継続的に取り組む姿勢を養う。	①進路選択に係る講話や体験活動等を通して、キャリア意識の向上を促す。 [進路指導課] [各教科]	【成果指標】 生徒各自が目標を達成できた。 アドバンスクラス 模試偏差値 ベーシッククラス 漢字検定 キャリアコース 商業検定	模試における英数国合計の偏差値が 55 以上の生徒が受験者の A. 50%以上 B. 40%以上 C. 30%以上 D. 30%未満 漢字検定準二級保持者の割合が A. 50%以上 B. 40%以上 C. 30%以上 D. 30%未満 商業各種検定合格率が A. 75%以上 B. 65%以上 C. 55%以上 D. 55%未満	アドバンス [7月模試] 1年 D (21%) 2年 A (60%) ベーシック D (15%) キャリア A (97%)	成 果：2年生は好結果が出ている。1年生は入学時のスタディサポート結果から例年と比較して力不足が目立つが、B 1以上が1人から4人と増加し指導の効果は出ている。 課 題：1年生は今後も指導を継続し伸ばしていく必要がある。2年生はより向上心を持つよう指導する必要がある。 改善策：1年生は苦手教科を改善するような指導が必要である。 成 果：準2級以上保持者が40名中6名であった。また、合格者、及び次回の検定に向けて主体的に学習する生徒が増えた。 課 題：苦手分野の把握や、十分な検定学習時間を取ることができなかった。また、他の検定と重なる日程であったため、次回受験日の周知を早期に行う必要がある。 改善策：朝学習や「自己を高める時間」等を利用して、苦手分野を中心に繰り返し学習に取り組む。また検定受験の目的・目標を明確化して学習意欲の向上を図る。 成 果：各検定合格率総平均97%と高い割合の結果であった。目標達成への学習意欲も向上してきている。 課 題：後期は受験種目が増え、難易度が上がるため、それに対応できる力が必要となる。 改善策：家庭学習に取り組める効果的な課題設定を工夫するなど、継続的・効果的な補習計画を実行する。

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	備考	
1	生徒自身が自己の目標を見据え、課題に対して主体的・継続的に取り組む姿勢を養う。	②習熟度(類型)別の授業・補習や学習課題等を通して、自ら学ぶ意欲を高める。	[教務課] [各学年] [各教科]	【満足度指標】 各クラスの1日の学習平均時間(各定期考査までの期間)が アドバンスクラス 2時間以上 ベーシッククラス 1時間30分以上 キャリアコース 1時間30分以上	各クラス(コース)において基準を達成した生徒の割合が A. 70%以上 B. 60%以上 C. 50%以上 D. 50%未満	アドバンス C (52%) ベーシック D (13%) キャリア D (48%)	成果：A組は意識の高い生徒は、常に2時間以上の学習時間をキープしている。C組は資格に向けて、学習が定着しつつある。 課題：A・C組ともに、目標を持っている生徒とそうでない生徒の二極化が見られる。B組は依然として、学習に対しての意欲が不足している。 改善策：解決策としては、明確な目標を持たせることである。教師側が、短期的・中長期的な目標を示すことが必要である。
		③教育ICT環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を通して、確かな学力を養成する。	[ITC関連 GIGAスタッフ] [各教科]	【努力指標】 ICT研修によってICT機器に習熟し、「GIGAスクール構想」に適った「新たな授業づくり」に積極的に取り組んだ。	ICT機器に習熟し、「GIGAスクール構想」に適った授業づくりに積極的に取り組んだ教員の割合が A. 80%以上 B. 70%以上 C. 60%以上 D. 60%未満	B (73%)	成果：GIGA校内研修計画を全体で共有し、若手教員を中心に授業改革に着手している。 課題：一人一台端末を活用した授業づくりを模索しているが、授業で実践した活用例を共有できる場が少ない。 改善策：校内研修などを通し、授業実践の成果や改善点を共有し、一人一台端末を活用した授業づくりの促進を図る。
2	規範意識と協調性を高め、自他を思いやる心を醸成する。	①学校内外の日常生活の場面で、TPOを前提とした判断と言動ができるよう支援する。	[生徒指導課]	【満足度指標】 規範意識を持って、自発的に行動することができたと考えている。	自分から主体的にTPOに応じた挨拶ができているか A. よく出来ている B. 出来ている C. あまり出来ていない D. 出来ていない	90% (A+B) (A 26%) (B 64%)	成果：A+B評価90%を達成できた。ただし、AよりもBの回答率が高く、A割合を高めていきたい。 課題：校外の人に対する挨拶など、感染症の影響もあるが、地域社会でのコミュニケーションに課題が残っているように感じる。 改善策：コロナ禍ではあるが、生徒会を中心とした委員会や部活動単位で、生徒の主体性を生かした挨拶運動等を実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	備考	
2	規範意識と協調性を高め、自他を思いやる心を醸成する。	②学校行事や課外活動を通して、多様性を尊重しながら協働できる姿勢を養成する。	[生徒指導課]	【満足度指標】 各種学校行事や体験活動により、良好な人間関係を築き上げるとともに、何事にも主体的に他者理解を通して取り組むことができるようになる。	学校行事を通して、自他を大切に する心を持てるようになったか A. よく持てるようになった B. 持てるようになった C. あまり持てない D. 持てない	年度末に評価	成 果：コロナ禍で制約がある中ではあるが、生徒同士が行事等を通して支え合おうとする姿勢を感じる場面が数多く見られた。 課 題：コロナ禍で活動に制限があり、生徒同士の支え合う機会が少ない。 改善策：後期は制約がある中でも、可能な限り行事等を工夫して実施していきたい。
3	地域との交流・連携を密にし、地域を理解し貢献しようとする姿勢を養う。	①地域資源(自然・人材・団体・企業)や他校種と連携し、地域理解を深め、探究する力を養成する。	[総務課] [各学年]	【満足度指標】 生徒が課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めている。	課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解が深められたと考える生徒の割合が A. 90%以上 B. 80%以上 C. 70%以上 D. 70%未満	D (64%)	成 果：現在の穴水町の課題とそれに対する具体的方策を知り、地域への個々の貢献の在り方を考えることができた。 課 題：各取り組みの関連性が弱く、生徒が活動をより深化させる機会に乏しい。 改善策：具体的目標となる生徒像を再確認し、活動に一貫した関連性を持たせ、生徒の活動の幅や視野を広げる工夫を考える。
		②地域ボランティア等へ積極的に参加し、地域貢献意識を高め、課題解決力を養成する。	[生徒指導課] [総務課]	【満足度指標】 生徒がボランティア活動や地域行事に関わり、地域の活性化に貢献していると感じている。	ボランティアや地域行事に関わり、自己の活動に有用感を感じている生徒の割合 A. 80%以上 B. 70%以上 C. 60%以上 D. 60%未満	年度末に評価	成 果：今年度は長谷部まつりなど昨年度中止になっていた地域行事が開催され、生徒の活動機会が増えた。また、町内の清掃ボランティア、潮騒の道の札掛け等、様々な活動に参加し、活性化に貢献することができた。 課 題：地域の行事に参加をしているが、生徒自身が地域に貢献する活動ができていないに肯定的に答えた生徒が52%と少ない。 改善策：後期も募金活動や牡蠣祭りなど、様々な地域行事に参加して活性化に貢献していきたい。その際、事前・事後指導を通して活動の意義を生徒に伝えていきたい。

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	備考	
3	地域との交流・連携を密にし、地域を理解し貢献しようとする姿勢を養う。	③ホームページ等で、教育活動や生徒の様子を積極的に情報発信する。	[総務課]	【満足度指標】 ホームページや学校だより等を通して、適切に学校情報や教育活動の様子が発信されている。	学校情報や教育活動の様子を知ることができる情報発信が、適切になされていると感じている保護者の割合が A. 90%以上 B. 80%以上 C. 70%以上 D. 70%未満	A (97%)	成果：生徒の活動の様子は広報・ホームページなどで知らせている。また、「こらぼる」やGoogle Classroomなどで生徒・保護者への連絡も即時的に行うことができた。 課題：ホームページは技術的な面もあり、担当職員に業務が偏りがちである。 改善策：ホームページ作成システムを再考し、様々な部署・部活動などがホームページ掲載業務に参加できるようにする。
4	学校の教育力向上のため、組織力を高め、教師力の充実を図る。	①授業改善と資質向上に意欲的に取り組むとともに、組織的思考力や組織的行動力を高める。	[全職員]	【努力指標】 クラス面談、互見授業、カウンセリング委員会等の各種会議が連結し、生徒と教師間、教員組織において課題解決に向けた対応がなされている。	校内の諸課題に対して、組織的対応や外部機関と連携しながら早期対応ができたと考える教員の割合が A. 90%以上 B. 80%以上 C. 70%以上 D. 70%未満	A (100%)	成果：問題を抱える生徒に対する報告、連絡、相談が適宜行われ、早期に外部機関とも連携しながら適切に対応できた。 課題：登校できない状態にある生徒への、心の相談やケアについて、具体的な改善にまで結びついていない。 改善策：潜在する心の問題を見逃さないために、日頃の発言やアンケート調査への内容等について、しっかりと分析把握を行う必要がある。
			[若手教員早期育成プログラムコーディネーター]	【成果指標】 年間研修計画に即して、研修を実践する。各期の若手が確実に力をつけるとともに若手教員が講師を行う場面を設定する。	校内研修の実施回数（互見授業研究・講師役も含む）が A. 25回以上 B. 20回以上 C. 15回以上 D. 15回未満		

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	備考
4 学校の教育力向上のため、組織力を高め、教師力の充実を図る。	②業務改善の意識を持ち、効率的・効果的に業務を実践する。	[全職員]	【成果指標】 各種業務の精選や重点化を意識し、教員が効率よく効果的に業務にとりこんでいる。	教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より A. 10%以上減少した B. 5%以上減少した C. 3%以上減少した D. 3%未満の減少であった	D (1%増加)	成 果：4～7月の4ヶ月調査で前年度より約1%の増加である。しかし、昨年度は部活動では対外試合が制限され、校内外の行事も縮減の状況であった。R2の6月・7月の2ヶ月比較では11%以上の減少である。 課 題：校外での練習試合や大会運営参加等が増加したため、その影響として校内業務における時間外勤務増加につながっている。 改善策：1日、1週間、月間のスケジュール管理を意識し、優先順位をつけ時間外勤務を減らす意識をさらに高める。
	③危機管理意識を高め、緊急時にも適切に対処できる学校組織を構築する。	[全職員]	【努力指標】 想定される危機に備えた対応や対策ができるよう、効果的な校内研修会が行われている。	研修会により、具体的な危機への対応の仕方が把握できたと考える教員の割合が A. 90%以上 B. 80%以上 C. 70%以上 D. 70%未満	A (100%)	成 果：年度当初に救命救急法等に関する研修を取り入れ、事故に際しての対応力が身についた。また、珠洲方面での地震を受け、危機管理マニュアルにおける職員個々の対応を再確認するなどした。 課 題：学校に配備されているAEDが玄関の1機だけなので、屋外での体育や部活動などの対応にやや不安がある。 改善策：様々な災害や危機を普段より想定し、対応力を高めておく必要がある。また、関係機関とも連携して、危機対応や安全機器の整備を進める。